

その日の午前の

その日の午前のあひだちゆう
電話の音がしきりに鳴つても
誰かの声の中で叫んでゐても
お前は遂に姿を現はさなかつた

争ひながら出かけて行つて
暗い道を急にまがつて
居なくなつてしまつたのか
夜がすぎても朝がすぎても

ねむくなつて椅子にまどろむ私に
ささやきかけるお前のまぼろし
通りすぎた山の瑞の葉ずれのやうに

帰ることのないお前の姿勢
くずの葉の白くうらがへる有様のやうに
みんな悲しい結末だ